

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290101239		
法人名	株式会社 ヒューマン・ネットワーク		
事業所名	介護支援センターながさき グループホーム福田		
所在地	長崎市小浦町4番地11		
自己評価作成日	令和2年9月16日	評価結果市町村受理日	令和3年2月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	令和 2年 11月 17日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成30年7月より「freedom委員会」「歯ッスル委員会」「食事委員会」「5S委員会」「in out委員会」の委員会を作り月に一度委員会の開催を行い、利用者様にとって生活の質を上げる為に取り組んで来たが、コロナウィルスの影響で「freedom委員会」「歯ッスル委員会」については満足できる委員会活動ができなかった。しかし不適切ケア排除の為の取り組みや、その内容について新人職員への指導、毎日行う口腔ケア方法の統一については大きな成果が出ていると感じます。また、外出する機会が減り、運動量の低下も出てきた為下肢筋力維持のためのチューブ体操や踏み台昇降、実際に階段の上り下りで下肢筋力低下に取り組んでいます。職員一人一人が利用者様個々に合わせたケア(どのようにしたら安全に移動できるか、どのようにしたら睡眠時間を確保する事ができるか等)について日々考えながら業務を行って来ています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

会社理念「愛と信頼、そして幸せ」を柱とし、事業所独自で「freedom、歯ッスル、食事、5S、in out」の5委員会を組織している。本部は年2回事前アンケートを配付後個別面談を実施し、職員は希望する研修分野や労働環境等の要望を伝えており、今年度新たに清掃員を採用し業務負担の軽減を図るなど職員の意見を反映する仕組みを構築している。また、身体拘束等の適正化を検討するfreedom委員会では、「不適切ケアのアンケート」を実施し、集計結果から翌月には強化項目を掲げ実践している。運営推進会議においては、家族の参加が多く、下肢筋力低下など不安の声があがり、踏み台器具等を購入し筋力維持のための運動を追加するなど家族の意見を迅速に取り入れている。この他、入居者への嗜好調査から刺身やクロワッサン等をメニューに加えるなど、あらゆる面において細やかに意向を聞き取り、スピード感をもって実現する姿勢は特筆すべきである。毎月家族宛てに送付する手書きの「お便り」からは、職員の入居者や家族への思いやりが伝わり、理念の具現化が窺える事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社理念”愛と信頼、そして幸せ”のもと日々利用者様と生活しておりますが、事業所内の理念の作成は行っていません。	新人職員には社長が理念の意味や目的を説明し、理解を深めている。施設長は、職員へ回覧する議事録等のコメントにて、理念を基に日々の業務を振り返るよう呼び掛けている。月毎の家族へのお便りや入居者の意向を尊重する姿勢が随所に見られ、理念の具現化が確認できる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年に入り唯一の地域行事への参加であるペーロン大会や地区の夏祭りもコロナウイルスにより開催されず、地域の方との関わる場を設ける事が出来なかった。	職員が地域の清掃活動に参加している。新型コロナ禍による自粛前までは、ペーロン大会や夏祭りなど地域行事への参加や幼稚園児の訪問など交流を広げている。前回の評価後、「地域交流センター」の広告紙を作成しており、今後スーパーやマンションの伝言板等を活用していく予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に自治会長様にも参加して頂き、入居者様の状況を報告させてもらっていますが、外出もしておらず、洗濯物干しにベランダへ出たり玄関の花を見に出たりした際に通りがかりの方へ挨拶をする程度にすぎません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にてどのような評価だったのかをご家族様へ報告させていただいています。検討が必要な内容については事業所内会議で実施に向けての話し合いを行います。	会議には家族の参加が多く活発な意見が出ている。事故報告や各委員会の活動状況報告など、詳細な議事録より透明性が窺える。今年度は新型コロナウイルス感染防止等のため、会議を3回延期している。その間、家族へ質問・相談・要望等の記入用紙を返信用封筒を添えて送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にも介護保険課の担当者の方に参加して頂き、時期に応じた連絡事項や助言を頂いています。また台風10号接近時の避難についての相談をさせてもらいました。	行政には日頃から不明な点を問い合わせ、協力関係を築いている。今年9月の大型台風接近時は避難について市へ相談し、1階のショートステイ入居者が垂直避難により2階フロアで共に過ごしている。事故報告書の提出においては本部を通してあり、本部とその都度連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニット入口の施錠はまだ実施しています。入居者様の状態に合わせて解放する時期を身体的拘束排除委員会(freedom委員会)にて検討していく予定です。	freedom委員会が、指針の整備、2ヶ月毎の運営推進会議で活動報告の他、“不適切ケアについてのアンケート”を実施している。集計結果より強化項目を掲げ事業所全体で実践すると共に、事業所内の年間研修計画にも5回取り入れている。ただし、委員会で検討した記録が十分ではない。	freedom委員会では、身体的拘束等の適正化のための対策を3ヶ月毎に検討し、幅広く活動しているため、その都度記録に残していくことが望まれる。実践記録や反省点などの資料を活かし、更なる取組みに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	年間研修計画の中に予定されている為、予定月は担当者による高齢者虐待防止についての勉強会の開催を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者として成年後見人制度の詳細を把握していなかった為、外部研修を3か月に渡り受講し理解を深めた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の契約締結については一つ一つ内容の確認を一緒に行い理解して頂いた上で入居して頂いている。また入居時に看取りについてや退居時の注意点も説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置しているが入っていたことはない。面会時や運営推進会議時に直接要望等を聞く機会がほとんどであったが、運営推進会議も開催できない事があった為、書面で要望等がないかご家族様へ送付した。	家族の意見は、来訪時に直接聞き取ったり、遠方の場合は、電話で尋ねている。利用者の足腰が弱ることを心配した家族の気持ちを汲み取り、ゴムチューブの購入に繋がった事例がある。毎月、利用者一人ひとりの様子を記した写真入りの便りを家族へ送付している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の事業所内会議の中に業務改善についての議題がある為会議時に聞く事ができる。また半年に一度全職員を対象とした個別面談がある為、面談時に聞く事もある。その場でも言えない場合は職員アンケートを配布する為自分の意見を書いてもらっている。	法人本部が、年2回全職員を対象にアンケートを実施している。その結果を踏まえて、半年に1度施設長が個人面談を行い、研修や労働環境についての希望を汲み取っている。口腔ケアを目的とする歯ッスル委員会やレク委員会等数種の委員会は職員が運営しており、職員が運営に積極的に参加していることが確認できる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回自己評価する機会を設けている。半期ごとの反省を踏まえて、新たな目標設定を立て目標達成に向けて半年間取り組む。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社内でも自主研修を開催し、職員が参加できる環境を作っている。また外部で実施されている研修の案内などがあれば、開示し、参加できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加し、他施設の管理者などとの交流を設けた。ボーリング大会の案内が来ていたが参加できなかった。映画の上映会には介護職員が参加させてもらった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の時にとにかく話を聞き、不安なことなどがあれば日々声掛けや確認を行い記録に残している。重要なのが入居前のアセスメントだと感じている為、入居前にご本人様や御家族様への聞き取りを実施している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前のアセスメントでご家族様や利用者様の気持ちの確認を行っており、また契約締結時に細かく話を行っており、その際に質問に対しては返答している。その後の関係作りについては面会時の対応や報告によって構築している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時どのような支援が必要か職員含めでの見極めは勿論ですが、身体状況が低下した際、ご本人様、ご家族様の希望を聞き外部サービスを利用する事も増えました。また、看取り期に近づく利用者様については事前指示書をもとに最終確認を行いケアに入っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみは以前もして頂いていましたが、最近は食事をお盆にセッティングして頂いたり、食後の食器洗いを利用者様2名でして頂いています。また、毎日の新聞から気になる記事を切り取り掲示する事も始めました。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の支援にはご家族様の協力は必須ですので、面会ができない中でも電話で声を聞いたりお手紙を毎月発行しています。また面会についても制限をかけて再開し御家族様と会える機会を設けました。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会についてはご家族様に限っている為、合う事はできませんが、ご家族様同行で外出して自宅に帰ったりお墓参りに出かけた方も居ますが事業所としての支援は行っていません。	新型コロナ禍で、面会の制限がある中、家族と携帯電話で会話する利用者もいる。また、事業所から家族に本人宛の手紙を書いてほしいと依頼し、馴染みの関係継続に努めていることが確認できる。好きな編み物や新聞購読を続けている例もあり、職員は、利用者の趣味や得意なものを尊重する気持ちを大切に寄り添っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションなども行っているが、利用者様同士が話しやすいようにリビングでも職員が間に入って話をしたりしている。またトラブルにならないように日頃の関係性なども踏まえ、座席の場所なども考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居となった方のほとんどが、病気などで施設復帰困難となり長期の入院になっている。入院先のご様子などをお伺いするに留まっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の意見を言える方からの要望に応える事は出来ていますが、認知症の進行から意思表示ができない利用者様については動作や表情や日頃のデータをもとに判断する事が多く、ご本人様の要望に沿っているのかは不明である。	職員は、利用者の耳元に話し掛け、触れ合いながらコミュニケーションを図っている。表出困難な場合は、必ず家族へ尋ねており、墓参りが実現した例や化粧品購入の希望に応えた例がある。起床の時間は強制せず、眠れない利用者に対しては、職員も一緒にお茶を飲み、寄り添う姿勢を大切に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に聞き取りをした内容をフェイスシートへ記録し、職員全員で共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間の個人記録や排泄チェック表で日頃の気づきや変化、過ごし方を把握することができる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングを行い、事前に現場職員からの情報をもとに、ケアの見直しをしています。	長期6ヶ月、短期3ヶ月のケアプランを作成している。職員は面会時や電話にて家族の希望を聞き取り、その都度同意を得ている。定期的にモニタリングとカンファレンスを実施している他、状態変化時は主治医の意見を取り入れプランを見直し作成している。介護記録からは目標に沿った支援の実践状況が確認できる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの内容に沿った記録でありケアプランの内容を実施したかどうか確認ができる書式となっているが、その他にも何か気づきがある場合は自由に書けるようにルールを変更した。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様より肩こりの要望がある場合は訪問マッサージの方に来て頂き、リハビリの希望がご本人様ご家族様よりあれば訪問リハビリの先生にきてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルスの影響もあり、地域へ出向く事も地域の方が施設に入る事もほとんどなかった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様が以前からのかかりつけ医を希望することもできる。その際は、ご家族様への情報提供を行いご家族様対応で受診して頂いている。	基本的には協力医をかかりつけ医としており、月2回の往診を受け、非常勤の看護師が健康状態を確認している。従前のかかりつけ医等の通院には家族が同行している。訪問歯科や訪問リハビリもあり、歯科医による勉強会を開催した際は、動画で撮影し、全職員の口腔ケア方法の統一に努めている。個々の薬剤管理も徹底している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤1名の看護師がいるが、公休などではない日もある為、事前に体調不良などが続いている入居者様の様子は休みでも報告を行い、必要に応じて主治医への報告を行っている。その他にも皮膚科、眼科受診も希望される方も居る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時点である程度の入院期間を確認し、検査等が終わった頃に再度状況確認の連絡をしている。再度入居して頂く為、医療機関での対応を確認しに出向く事もある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今年に入って3名の看取り介護を行った。その都度反省点を上げ、次の看取り介護に活かせるように検討している。看取り介護に入る場合は、ご家族様、主治医、事業所職員で治療の方針や御家族様の希望を確認した上で対応している。その際に事前指示書の内容の確認を行う。	入居時看取りについて家族と指針の他事前指示書を交わしている。重度化した際は再度事前指示書の確認を行い、家族の同意を得て支援に取り組んでいる。今年度は複数の看取り支援があり、協力病院との連携体制を確保し、管理者が中心となり夜勤職員をフォローする声掛けや、その都度反省点を振り返るなど積極的に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルがあるので各ユニットに貼りだし、把握している。職員一人だけという状況は無いので、一緒に居る職員と協力し、看護師・管理者、主治医への報告などを早期に行う。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	毎月の消防訓練に合わせて、非常災害時の勉強会や半年に一度の避難訓練、更に11月には自然災害訓練を実施する計画で進めている。	毎月の自主訓練では、入居者の歩行状態を確認し誘導方法の検討を行っている。年2回の総合訓練では、家族に事前に開催を呼び掛け、参加した家族から感想を得ている。ただし、消防署に立会いを依頼しているものの実現できていない。自然災害の訓練は今年11月末に予定している。避難先用の持ち出し備品や備蓄等の備えがある。	避難訓練においては、消防署と連携を図り助言や指導を受けることで、反省点などを職員間で共有していくことが望まれる。消防署への依頼を引き続き行い、実現に繋げることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	適切な言葉遣いで対応出来る様に声を掛けあっています。利用者様のプライバシーに関わる情報などを話時などは、周りの利用者様などに聞かれないようにしている。不適切だと感じる際は注意し合っています。	利用者を呼ぶ際は、苗字にさん付けである。パッド類は、人目に付かないよう保管し、昼間ポータブルトイレには、布を掛け羞恥心に配慮している。利用者の写真の掲載については、家族の同意を得ている。職員から利用者の衣服の名前の文字が大きすぎるとの意見があり、改善した事例がある。職員は、守秘義務の誓約書を提出している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	起床の声掛けを行うが起きたくないという希望がある場合や、食事提供した際残食が多い場合は無理強いせず下膳します。嗜好や前後の体調で判断しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限り、本人の意向に沿った支援を行っているが、スケジュールなどはある程度決まっている為、時間通りに終わらず焦る職員も居る。レクや入浴等の声掛けは行うが気分が乗らない時は不参加や入浴日変更を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った洋服を着て頂く事と、汚れや破れ、ヨレがある場合は買い替える。起床時は髪の毛の整容や眼脂等まで気を付けている。月に一度訪問美容の方に来て頂き、カット、カラー、パーマまでして頂ける為、それぞれに合った髪型である。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査を定期的に行い、できる限り利用者様の嗜好に合わせるよう、梅干しやふりかけ等を準備している。食器洗い等のお手伝いはして頂いている。トロミを使用する方も無味のトロミではなく出汁とろみを使用しおいしく食べて頂く。	食事は、隣接するショートステイの厨房で作り、事業所できざみ食やミキサー食にし提供している。3ヶ月に1度、利用者の嗜好調査を行い、メニューに反映し、刺身を食いたいという希望が実現している。手作りのおせちの他、誕生日には、お祝いのメニューを皆で味わっており、食事が楽しいものとなるよう支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量は毎食記録しており、水分量も一日通して把握し1人1000cc以上は飲んで頂くような飲み物を準備しこまめに提供している。また栄養状態が悪い方は栄養補助食品を処方購入し対応している。体重も合わせて管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	事業所内に口腔委員会がある為、個々に合った口腔ケアマニュアルを作成し、自分でできる方は手順書とし、介助が必要な方はマニュアルとして活用している。疾患や体重減少で義歯が合わない事もある為、歯科医師への相談も随時行えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	事業内で排泄に関する委員会を立ち上げており、個人に合った排泄用品を使用している。オムツ使用の方はおらず、夜間はリハパン、日中は布パンツにパットへ変更する事も多い。また、全員が同じパットではなく尿量や回数等でも選んでいる。	排泄に関する「in out委員会」を作り、排泄の自立支援を行っている。原則は、おむつを使用しない方針である。利用者一人ひとりの体調を注視し、パッドの種類や下着の形態を変更するなど取り組んでいる。水分摂取については、季節により水分補給の量を調整し、スムーズな排泄に繋がるよう支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操やレクリエーションに加え、一日1000ccの水分補給を目安としている。しかし便秘気味の方は多く、排便の確認を毎日行い排便が3日ない場合は薬で調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決めているが、入浴時間帯について要望がある場合は同日内で調整している。	日曜以外は毎日沸かし、週3回入浴を支援している。湯は毎回入れ替え、5種類の入浴剤の中から利用者の好みのもを入れていく。浴槽は、一般の浴槽と機械浴の2種類を備え、介護度の高い利用者であっても浴槽に浸ることができる。浴槽をまたぐことに躊躇していた利用者にとっても、機械浴でリラックスできている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	元気な方には日中、極力臥床して頂き、皆様でお過ごせるようレクや座席を変えている。できる限り、メリハリのある生活を送って頂けるように介助等を行っているが、食事量、体力、心疾患、入浴、夜間帯の状況等様々な点で判断し個々に休息を進める利用者様もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事情報をファイルに綴じ、いつでも回覧できるようにしています。また、処方内容やお薬の種類が変更された場合は看護師より申し送りがあります。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干し、食事の準備・片付け等をできる範囲でお手伝いして頂いています。毎日新聞を読まれる方が他利用者様にも知って欲しい記事を切り抜き掲示して頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルスの影響もあり、今年に入って外出レクは行えていない。外に出る事と言えば洗濯物を干しに出る事と、気分転換に駐車場に出る事。お盆の時期には自宅へ帰ったり、お墓参りに行かれた利用者様も居た。	新型コロナ禍の中、全員での外出は自粛しているものの、毎日ベランダで日光浴を兼ねて洗濯物干しを手伝う利用者もいる。天気の良い日は、駐車場の紫陽花を見たり、近隣のスーパーまで歩行訓練を兼ねて出掛けている。家族と共に外食したり、盆には帰省する利用者もいて、制限されている中でも外出できるよう工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事業所で金銭の管理を行っています。預かっているお金を持ち職員と利用者様で近隣のお店に衣類やスリッパを買いに出かける事はあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様より電話の希望がある場合は対応しています。お手紙ではなく年賀状は毎年作成し御家族へ送付しております。コロナウイルスの影響で面会もお断りしていた時期もあったので電話で声を聞けて安心される利用者様も居ました。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体的に配慮できていると感じるが、コロナウイルス予防の為、全員が同じ方向を向いて食事をする事となり、1人で食事をしている気持ちになったりと最初は混乱がありました。	リビングからは海が一望でき、吹き抜けの窓から自然光が射し明るい空間である。平行棒やゴムチューブの下肢運動器具やテレビ体操など設備が充実している。新型コロナウイルス感染対策で対面を避けるように机を配置している。一日数回の施設内アナウンスによる換気の徹底の他、消毒液や空気清浄機などを設置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前にソファがありそれぞれ会話をしたりテレビを見たり、新聞を読んだりしている。その他リクライニングソファで休む事もできる。何か作業や会話をしたい方はリビングテーブルですべて頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に持ち込まれた物に加え、口腔ケア時に必要になった椅子をご家族へ相談したところ、昔母が好きだった椅子と言って持って来て頂いた事もある。	居室は持ち込みが自由で、使い慣れた家具や椅子の他、寝具や化粧水など日用品を備えている。洗面台があり個別のスペースで口腔ケアを行うことができる。ポータブルトイレは布で覆い、人目に触れないよう配慮している。今年度より整理整頓等を担う5S委員会を立ち上げている他、清掃員を採用することにより清潔保持を強化している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	大量に出る洗濯物をたたんで頂く際、衣類の名前を確認し利用者様毎に分けてたたむことができる。飲み終わった湯飲みをキッチンへ持って行き自身で使用した物を洗おうとされる際は止めず、声掛けしながら一緒にして頂く。		